

品目別レポート（鶏肉）

■品目説明

食用の鶏肉とは、食鳥検査に合格した健康な鶏、または、その一部分である。輸入鶏肉は骨付きのものおよびその他のものに分けられている。日本では一般的に、もも肉のほうがむね肉よりも好まれる傾向がみられ、輸出先として日本は格好の市場となっている。

内閣官房に設置された農林水産業の輸出力強化ワーキンググループによる「農林水産業の輸出強化戦略（平成28年5月）」では、市場開拓・需要創出としては、日本食レストランの経営者、駐在員等「日本ブランド」を評価している者をターゲットに、から揚げや焼き鳥等の日本の食文化と一体的に売り込む。また欧米にはむね肉を売り込み、イスラム諸国には丸どりを売り込むなどして、輸出先国・地域の食文化等に合わせる。そして、高付加価値化を後押しするため、国産種鶏（地鶏等）の育種改良等を通じて特色ある鶏の生産基盤を強化するとしている。

19年の国内生産量は、164万3千トン（前年比2.7%増）だった（農林水産省『畜産の動向』、令和2年7月）。

■貿易概況

▼表1：日本の鶏肉輸出

（単位：ドル、トン、%）

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
香港	8,657,272	4,706	10,364,363	5,103	11,002,264	5,139	6.2	0.7
カンボジア	8,069,539	4,752	6,258,721	3,848	5,138,815	3,224	△17.9	△16.2
ベトナム	896,862	546	1,297,513	706	1,651,848	1,011	27.3	43.2
全世界	17,623,673	10,004	17,920,597	9,657	17,792,927	9,375	△0.7	△2.9

注：対象はHSコード 0207

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

19年の鶏肉の輸出動向をみると、金額は前年比0.7%減の1,779万ドル、数量は同2.9%減の9,375トンであった。主要輸出国・地域の動向をみると、1位（金額ベース）の香港は、金額が前年比6.2%増の1,100万ドル、数量が同0.7%増の5,139トンと、全体の約5割強（金額で61.8%、数量で54.8%）を占めた。2位のカンボジアは、金額が同17.9%減の513万ドル、数量は同16.2%減の3,224トンとなった。3位のベトナムは、金額が同27.3%増の165万ドル、数量は同43.2%増の1,011トンと増加した。

■海外事情

●香港

▼表2：香港の鶏肉輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
中国	354,006,855	156,248	348,885,115	151,060	372,527,545	158,901	6.8	5.2
米国	457,503,997	293,875	444,239,302	274,880	343,195,856	258,533	△ 22.7	△ 5.9
ブラジル	414,528,489	261,471	360,091,826	224,302	304,910,427	195,346	△ 15.3	△ 12.9
フランス	37,430,811	13,604	18,708,214	6,451	36,643,801	14,057	95.9	117.9
ポーランド	46,807,427	24,065	42,419,895	22,034	34,422,363	17,700	△ 18.9	△ 19.7
日本 (11位)	10,850,309	5,688	10,865,422	4,973	10,128,573	4,651	△ 6.8	△ 6.5
全世界	1,459,514,775	829,817	1,389,929,689	760,404	1,249,108,939	721,445	△ 10.1	△ 5.1

注：対象はHSコード 0207

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

19年の香港における鶏肉の輸入動向をみると、金額は前年比10.1%減の12億4,910万ドル、数量は同5.1%減の72万トンであった。輸入相手国の動向みると、1位の中国が前年比6.8%増の3億7,252万ドル(シェア29.8%)、数量ベースでは5.2%増の15万8,901トン(シェア22.0%)だった。2位の米国は、同22.7%減の3億4,319万ドル(同27.4%)、数量ベースでは5.9%減の25万8,533トン(同35.8%)、3位のブラジルは、金額が同15.3%減の3億491万ドル(同24.4%)、数量は同12.9%減の19万5,346トン(同27.0%)となり、上位3カ国の合計シェアは、金額で81.7%、数量で84.9%を占めた。

日本からの輸入額は11位。金額は前年比6.8%減の1,012万ドル、数量は同6.5%減の4,651トンとなった。日本産鶏肉の輸入量のシェアは全体の1%未満に留まっている。

日本からの生鮮食品は日系スーパーマーケットでの取り扱いが圧倒的に多いが、加工食品は地元スーパーマーケットでも取り扱われている。近年は日本の生鮮食品を扱う地元系高級スーパーマーケットも増えてきている。価格帯については、日本(徳島)産のもも肉(阿波尾鶏、トレー、現地系富裕層向け店舗)の場合、100gあたり28香港ドル(約401円)程度だ。ちなみに米国産の骨付きもも肉(トレー、現地系ローワーミドル向け店舗)は100gあたり4.03香港ドル(約57円)、フランス産手羽先(トレー)1パック6個入り52香港ドル(約746円)であった(『現地市場価格調査』、ジェトロ、2020年4月)。

また、外食向けについては、これまで日本からの輸出が手羽先や鶏足(モミジ)中心であったことから、正肉(もも肉、むね肉等)の輸出拡大を図るべく、日本産の地鶏等の品質や味についてストーリー性をもってプロモーションを行う必要がある。

本レポートに関する問い合わせ先：
日本貿易振興機構（ジェトロ）
農林水産・食品部 農林水産・食品課

〒107-6006
東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル
TEL：03-3582-5186

【免責条項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る自体が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。